

非認知能力の評価・育成事業における指定校等の取組について

1 取組の概要

令和5年4月から非認知能力の評価・育成事業の指定校として、中学校4校、高等学校2校を指定し、取組を開始しました。今までの指定校事業との違いは、県教育委員会が指定校に具体的な取組を指定するのではなく、目指す児童生徒像「自分と他者をかけがえのない存在と認識した上で、課題を自分事化し、自ら考え、判断して、責任ある行動をとる人」に向けて指定校がそれぞれの学校の状況に応じた取組を学校全体で考え、実施していることです。

初年度である昨年度は準備期間としていましたが各指定校では既に具体的な取組が始まっており、今年度はそれらの取組が本格化しています。また、協力校を別途指定して、指定校と連携した取組などが広がっています。

なお、高等学校は、ステューデント・エージェンシー・ハイスクール(SAH)として取り組んでいます。

2 指定校

- (1) 藤岡市立小野中学校
- (2) 下仁田町立下仁田中学校
- (3) 川場村立川場中学校
- (4) 玉村町立南中学校
- (5) 県立前橋南高等学校
- (6) 県立高崎女子高等学校
- (7) 県立伊勢崎高等学校(令和6年度より)

3 協力校

(小学校 9校)

沼田市立沼田小学校※、沼田市立池田小学校※

指定校中学校区小学校 7校

(県立高等学校 8校)

前橋高等学校、前橋女子高等学校、高崎高等学校、渋川高等学校、渋川女子高等学校、富岡高等学校、太田フレックス高等学校※、沼田女子高等学校※

※令和6年度より

4 その他

群馬県教育ビジョンに基づく児童生徒がエージェンシーを発揮して主体的に取り組む学びや活動は、指定校や協力校に限らず全県で取組が広がっています。これらの取組も全県で情報共有していきます。

(別紙)

具体的な取組例

非認知能力の評価・育成事業では、指定校や協力校において目指す児童生徒の姿を「自分と他者をかけがえないの存在と認識した上で、課題を自分事化し、自ら考え、判断して、責任ある行動をとる人」としており、「群馬県教育ビジョン」の考え方と重なるものです。また、群馬県教育ビジョンに基づく児童生徒がエージェンシーを発揮して主体的に取り組む学びや活動は、指定校や協力校に限らず全県で取組が広がっています。各学校においては、発達段階に応じて、児童生徒の主体性を伸ばす活動や授業等の工夫、学校運営の改善など、児童生徒の自主性・自律性を生かした様々な取組が行われています。

<小学校>

- 学級活動を大切にし、発達段階に応じた児童の輪番制による学級会の企画・運営や、児童中心の児童会活動や委員会活動、児童が参画する場面を増やした学校行事の実施。
- 相手意識を強くもつことができる、異学年での学習発表会の実施や、地域・保護者・交流校等に向けた発表会の企画・運営。縦割り班を活用した学年を超えた学校行事や清掃活動等の実施。
- 自己決定の場を大切にした授業計画の作成や、個々の児童に応じた学習課題、教材教具、学習形態等の学習環境の整備。
- 幼児期の遊びの中での自己決定の機会を、小学校1年からの生活科だけでなく、他教科にも活かせるようなスタートカリキュラムの推進。
- 学校経営方針全体で、教育活動を「させる」から「する」へと児童中心のものに変更し、教職員の意識変換を図るとともに、目指す児童像の1つを「考えて行動する子」に変更するなど、教職員の共通理解の促進。
- 低中高学年ブロックでのチーム担任制を実施。

(別紙)

<中学校>

- 教職員だけでなく、「目指す生徒の姿」を生徒と一緒に作り上げ行動指標を作成することで、生徒・教職員で共通理解や共通意識をもった学校運営。
- 生徒会や各委員会の活躍の場の拡大や、学校行事や学校運営への生徒の参画。
- 自己決定、対話・交流、試行錯誤を取り入れた授業の実践。
- ICTを活用した授業の「ふり返し」を行い、蓄積、共有、交流することで、生徒自身のふり返しや、教師の見取りと支援に活用。
- 小中学校合同の教員研修会等により、目指す子供の姿や学校像の意識合せ。
- 「教師の自主性・自律性を生かした校内研修」による教師力の育成。
- 学校や地域で目指す力を明らかにするとともに、非認知能力の広報資料を発行し、保護者や地域と情報共有。
- 複数担任制を導入し、各学年で工夫した学年経営・学級経営を実施。

<高等学校>

- 学校行事や、生活環境の整備について生徒自身が企画・実現・運営できる場の設定。
- 生徒自身が、「時間を有効に使う意識」や「学習を計画する意識」を高め、自分にとって最適な学びをデザインできるような時間を定期的に設定。
- 生徒の主体性を育てる授業を目指すとともに、個別最適化した生徒への課題を設定したり、生徒の主体性を育成する課外授業を企画。
- 複数教員で多面的に指導を行うチーム担任制の導入。
- 校内だけの活動ではなく、専門家等の外部講師や外部機関を活用した、広がりや深まりのある探究活動の充実。
- 国際理解、国際交流の場の設定。